

# ミャンマーにおける貨物鉄道へのモーダルシフト促進のための の実証事業の概要

## 取組の概要

ミャンマーで初の鉄道コンテナ輸送導入に向け、効率的な輸送が可能な鉄道貨物コンテナ輸送の実証事業を実施。同輸送サービスの導入による効果及び課題を検証して、同輸送サービスの導入に係るビジネス環境の改善及び調和の提案を行う。

## 貨物輸送の現状

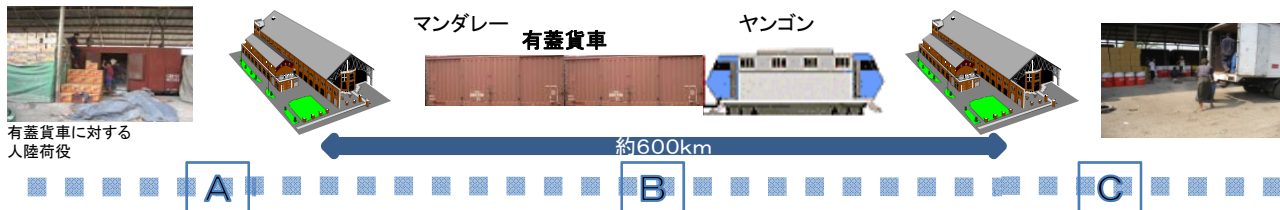
### <貨物トラック輸送> (主流となっている輸送手段)



#### <現状>

- 荷物が集約されず非効率 → 多頻度輸送
- 常態化する過積載
- 燃料費高騰によるコスト高
- 都市部の渋滞
- バラ積みによる荷痛み

### <貨物鉄道輸送> (期待されている輸送手段)



○ヤンゴン～マンダレー間の走行時間は21時間、これに荷役作業時間等を加えると1往復に82時間

○主な鉄道輸送貨物：  
・米、食品、木材、一般雑貨など農産・水産品  
・鉄鋼、ガソリン、軽油など燃料系  
※貿易貨物はなく、すべて内貨扱い

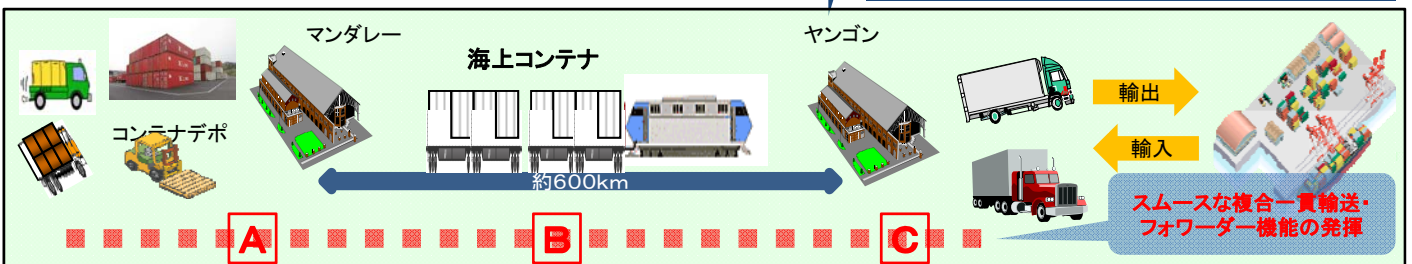
- ・海上コンテナではなく、有蓋貨車による輸送
- ・労働集約型の荷役作業
- ・荷主、物流企业との連携はない

- ・甚だしい時間ロス(非効率)
- ・頻発する荷痛みの発生
- ・高い荷役、集約及び集配コスト

## トライアル輸送

- ・トライアル輸送 → 輸送の効率性・安定性・定時性の検証
- ・トライアル荷役 → 荷役の効率性、荷主との連携の検証

・ミャンマー国鉄等政府・荷主に対する日本の質の高い輸送サービスのアピール  
・進出日系企業(荷主・ロジ会社双方)に対する新たな輸送モードの提供



## トライアル輸送の実施スケジュール(予定)

2014年	
9月25日	鉄道へのコンテナ積み込み、ヤンゴン港出発
26日	マンダレー着
27日	トラックへコンテナ積替え、顧客へ輸送
28日~1日	顧客にてVAN積み、マンダレーへ輸送
2日	鉄道へのコンテナ積み込み、マンダレー発
3日	ヤンゴン港着、コンテナ積み下ろし

○1編成(15両)、1両につき20fコンテナ×2、または40fコンテナ×1でのトライアル輸送を実施  
○うち2両については、振動測定及び温湿度変化測定を実施

○マンダレーでのコンテナ荷役  
(→ リードタイムの大幅な圧縮)

(参考)併せて、鉄道コンテナ貨物輸送の導入に必要な事業許認可、保稅、土地利用等の各種制度・手続きの課題等を調査